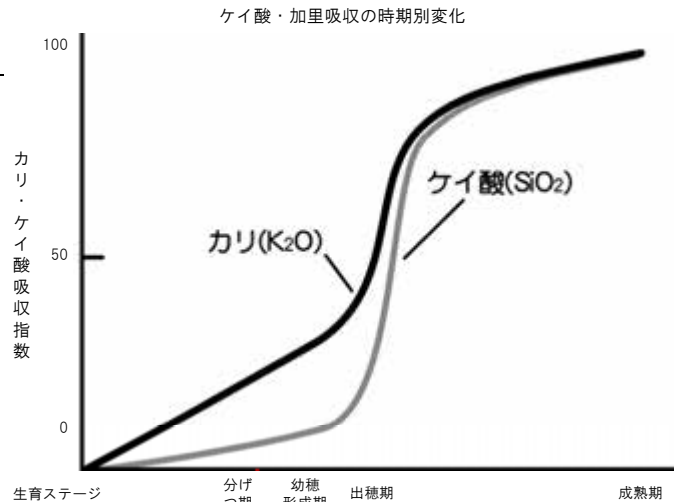


肥培管理

6月は稲体を作る栄養成長の仕上げの月になります。また7月は稲穂を作る生殖成長が始まる月になります。収量や品質を決める月になりますので圃場を観察し、的確な肥培管理を実施しましょう。

1. ケイ酸・加里を補給しましょう。

稲のケイ酸吸収量は最高分けつ期以降に徐々に多くなっていき、出穂期以降に急激に上昇します。ケイ酸や加里は倒伏軽減や病害虫の抵抗性向上に加え、高温による品質低下や登熟低下を軽減させる効果もありますので積極的に施用しましょう。



資材名	散布量	散布時期
けい酸加里 (ケイ酸 34%・加里 20%)	20kg/10 ^ア	コシヒカリの場合は 6月下旬
ミネラルPK (リン酸 20%・加里 18%)		

2. 適切な時期に穂肥を施用しましょう。

穂肥は適正な着粒数と登熟向上のために必ず施用しましょう。施用の際には圃場ごとの幼穂長や生育（草丈・葉色・茎数）を確認して適期適量で施用しましょう。

品種	穂肥1回目		穂肥2回目	
	時期	10 ^ア -施用量	時期	10 ^ア -施用量
ハナエチゼン	幼穂長1~2mm (6月24日頃)	適正 15kg	1回目の10日後 (7月4日頃)	適正 15kg
		やや過剰 12kg		やや過剰 12kg
コシヒカリ	幼穂長10mm (7月16日頃)	適正 12~15kg	1回目の7日後 (7月23日頃)	適正 12~15kg
		やや過剰 10kg		やや過剰 10kg
		過剰 -		過剰 10kg
日本晴	幼穂長1~2mm (7月15日頃)	適正 15kg やや過剰 12kg	1回目の10日後 (7月25日頃)	適正 15kg やや過剰 12kg

① 基肥一発肥料の場合は・・・

穂肥の施用時期に葉色が淡い場合は窒素不足が予想されますので穂肥で補いましょう。日本晴などの倒伏しにくい品種は葉色を見ながら積極的に施用しましょう。またコシヒカリは分施穂肥の2回目に相当する時期に施用しましょう。

② 分施（基肥・穂肥）の場合は・・・

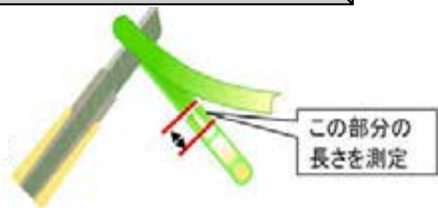
1回目の穂肥は時期を的確に実施しよう

施用が早いと穂数は増加しますが、稈が伸び・止葉が長く、倒伏しやすくなり登熟が悪くなります。施用が遅いと穂数が不足し、玄米中のタンパク含有量が多くなるため食味を低下される原因となります。

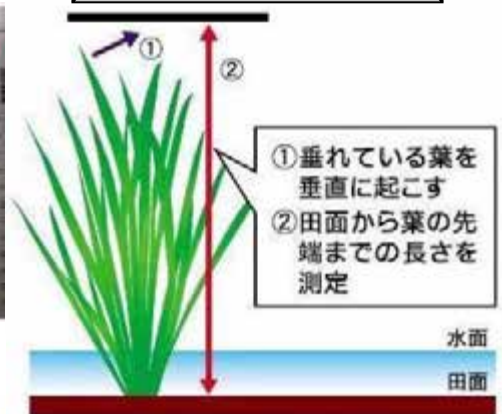
2回目の穂肥は確実に実施しよう

温暖化により夏場の活力が低下し、8月上旬の出穂期に葉色が淡くなっていることも胴割れ米の発生要因と考えられます。

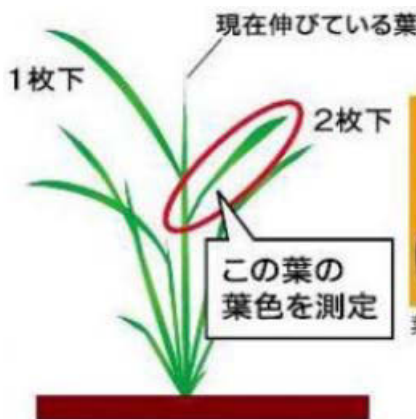
幼穂の測り方



草丈の測り方



葉色の測り方



- ① 平均的な生育の稲で最も長い茎を選ぶ
- ② その茎の中で、現在伸びている葉の2枚下の葉を選ぶ
- ③ 葉色板から1cm程度離して色を比較する

コシヒカリ幼穂長 2mm 時点で倒伏診断をしましょう。

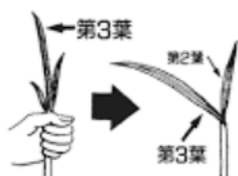
圃場内の平均的な生育箇所を連続して10株ほど測る

① 草丈・葉色・茎数から診断

生育状態	草丈	葉色	株あたりの茎数	倒伏危険度
適正生育	75cm 未満	3.5	25 本程度	小
過剰生育	85cm 以上	4.5	30 本以上	大

② 第3葉身長から診断

上位第3葉身長が45cmを超える場合は下位節間が伸長している可能性大



葉鞘に沿って葉をまとめた時に株元から最高位にある葉が上位第3葉

倒伏の危険度が高い時はスマレクト粒剤などの倒伏軽減剤を施用しましょう。
(特別栽培米【移植】では使用できません)



商品名：スマレクト粒剤
使用時期：出穂 15～10 日前
施用量：2～3kg/10a

カメムシ防除

★ハナエチゼン以外にもカメムシ被害が多発しています★

従来カメムシ被害による斑点米はハナエチゼンの格落ちの大きな要因となってきましたが、近年の温暖化による積雪量・積雪日数の減少により大型で生息期間の長いクモヘリカメムシなどが多発し、コシヒカリや日本晴の大きな格落ち要因となりつつあります。草刈と防除を実施しカメムシ被害を防ぎましょう。



1. 防除前の草刈を行いましょ。

斑点米の要因であるカメムシの住処を無くし生息できないように畦畔や農道の草刈を行いましょ。

一斉草刈りウィーク・・・7月4日～7月12日

2. 基幹防除（2回）を実施しましょ。

斑点米予防にはラジコンヘリ防除などの一斉防除で生息数を減らすことが効果的です。2回の基幹防除は必ず実施しましょ。ラジコンヘリ防除が出来ない圃場では粉剤での2回防除または粒剤を散布しましょ。



【個人防除】の場合

剤型	防除回数	防除時期	薬剤名	使用量	使用時期
粉剤	1回目	穂揃い期 (出穂後5～7日)	エクシード粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで
	2回目	1回目の7～10日後	アルバリン粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで
粒剤	1回目	出穂～出穂14日後	アルバリン粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで

3. 仕上げ防除を行いましょ。

上記とおり、積雪日数が少ない年は大型で生息期間が長いクモヘリカメムシの越冬数が多く異常発生する可能性があります。カメムシの発生状況に応じて、農薬の使用時期を遵守した上で仕上げ防除を実施しましょ。

